

設計開発部門改革の第一歩

～製品コストは設計段階で決まる！設計部門の大改革！

大阪会場

日時 **2021年9月15日(水)** 10:00~17:00
(9:30 受付開始、休憩 12:30~13:30)

会場 **日刊工業新聞社 大阪支社 セミナー会場**
大阪市中央区北浜東 2-16

受講料 **44,000円**
(東京・大阪) (資料含む、消費税込)

*同時複数人数のお申し込みは2人目から39,600円
*追加申込の際は備考欄に「複数割引適用希望」とご記載ください。
(記載が無い場合は通常料金のご請求となります場合がございます。予めご了承ください)

東京会場

日時 **2021年10月13日(水)** 10:00~17:00
(9:30 受付開始、休憩 12:30~13:30)

会場 **日刊工業新聞社 東京本社 セミナールーム**
東京都中央区日本橋小網町 14-1 (住生日本橋小網町ビル)

9/15 大阪会場案内図 日刊工業新聞社 大阪支社セミナー会場



10/13 東京会場案内図 日刊工業新聞社セミナー会場



セミナー申込を検討中の皆さまへ 新型コロナウイルス感染症に伴うセミナー開催及び対応について、弊社WEBサイトにてご確認いただけます。
<https://corp.nikkan.co.jp/seminars/view/3693> **受講にあたり** 開催決定後、受講票並び請求書をご郵送いたします。申込者が最少催行人数に達していない講座の場合、開催を見送りとさせていただきます。(担当者より一週間前を目途にご連絡致します。)

お申し込み方法 ホームページ (<https://corp.nikkan.co.jp/seminars/search>) または、下記申込書をご記入のうえFAXにてお申し込みください。

受講料 セミナー開催日1週間前までに銀行振込にてお支払いください。振込手数料は貴社でご負担願います。

キャンセルポリシー 開催日1週間前までの受付とさせていただきます。1週間前までにご連絡がない場合はご欠席の方もキャンセル料として受講料全額を頂きます。

*会場には受講者用の駐車場がありません。必ず最寄りの公共交通機関でご来場ください。

申込・問合せ 日刊工業新聞社 総合事務局 セミナー事業部 TEL 03 (5644) 7222 FAX 03 (5644) 7215

受講申込書

設計部門改革

※○印を記入してください (9/15 大阪) (10/13 東京)

お申し込みは

<https://corp.nikkan.co.jp/seminars/search>

会社名	フリガナ	業種	
氏名	フリガナ	TEL	
	部署・役職	FAX	
所在地	〒	E-mail	※今後、E-mailによるご案内を希望しない方は <input type="checkbox"/> チェックをしてください。
備考			

個人情報の取り扱いについて

ご登録いただいた情報は日刊工業新聞社が細心の注意を払い、展示会・セミナー・サービス等、各種ご案内を送らせていただくことを目的に利用させていただきます。なお、宛先変更・配信停止をご希望の際は右記までご連絡ください。【ご連絡先】日刊工業サービスセンター 情報事業部 nkmail01@nikkansc.co.jp

No.212020
No.210256

開催主旨

ブラックボックスになりがちな設計開発部門を大改革!!

多くの企業では、設計部門が抱える問題として、「設計リードタイムが長く、出図はいつも締切りギリギリ」、「担当者任せとなり設計プロセス・進捗が見えない」、「蓄積された技術の整備不足のため設計の標準化が進まない」などの声をよく耳にします。これらの問題を解決するには、設計部門の改革しかありません。

しかし現状では、改革するにしても「どこから手を付けて良いのかわからない」、「日常業務に追われ、改革するための時間も取れない」などを理由に、改革の手が及んでいません。

本セミナーでは、従来型のVE手法や改善レベルでは行えない大幅なリードタイム短縮・コストダウンの方法を、設計部門改革のテクニックとして解説いたします。

まずは本セミナーへのご参加により、改革の第一歩を踏み出しませんか。

講師

株式会社アステックコンサルティング コンサルティング本部 コンサルタント **前田 俊秀** 氏

【略歴】 大手家電メーカーにおいて事業企画、商品開発の責任者として要職を歴任すると共に、同社の生産部門を指導し収益性の改善に大きく貢献した。その後、(株)アステックコンサルティング入社。粘り強く問題に取り組む姿勢と誠意あふれる指導は評価が高く、製造業の様々な領域で実践コンサルティングを展開している。

プログラム

1. 『設計部門が抱える問題点』

- (1) 設計部門の実態はどうなっているのか
- (2) 設計部門には多くのものが求められている
- (3) 従来に比べ、設計者の業務負荷が増大している
- (4) 設計部門のミスは、非常に大きなロスに直結する
- (5) 必要技術の高まりと比べ、人材育成の補強が不十分である

2. 『設計の基本思想があるか』

- (1) 設計部門の効率が低い理由
- (2) 事実が正確にとらえられているか
- (3) 設計部門の役割と機能を定義する
- (4) 設計の基本思想確立と個別設計思想を構築する

3. 『設計標準化の4つの考え方』

- (1) 標準化とは制限をかけること
- (2) モノ、手順、考え方、条件の標準化
- (3) 新図を書かない仕組み作り
- (4) 設計フローとチェックポイント管理
- (5) 思考のブラックボックスのオープン化

4. 『設計による具体的なコストダウンのテクニック』

- (1) 原材料費を引き下げるためのチェックポイント
- (2) 加工工数を下げる設計の行い方
- (3) 設計で製造コストを下げる取組み
- (4) 見えないムダを削減する

5. 『事例研究』